

This page Is Inserted by IFW Operations  
And is not part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of  
The original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

## **IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

As rescanning documents *will not* correct images,  
Please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平3-221030

⑤ Int. Cl.<sup>5</sup>

識別記号 庁内整理番号

④ 公開 平成3年(1991)9月30日

A 61 B 5/022

8932-4C A 61 B 5/02 3 3 5 F

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑭ 発明の名称 血圧計

⑰ 特 願 平2-17170

⑱ 出 願 平2(1990)1月26日

⑲ 発 明 者 寺 田 晴 博 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内  
⑳ 出 願 人 松下電工株式会社 大阪府門真市大字門真1048番地  
㉑ 代 理 人 弁理士 石田 長七 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

血圧計

2. 特許請求の範囲

〔1〕湾曲したカフ帯に血圧計本体を一体に装着した血圧計であって、カフ帯の上面に装着された血圧計本体の一端側を他端側に比べてカフ帯の湾曲方向に沿って延出し、この延出部分に人体の血圧測定可能な部分へのカフ帯装着時の把持部を形成して成ることを特徴とする血圧計。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はカフ帯の上面に血圧計本体が装着され、カフ帯と血圧計本体とが一体となった血圧計に関するものである。

〔従来の技術〕

近年、カフ帯1の上面に血圧を表示する表示部分13等が設けられた血圧計本体2を装着した一体型の血圧計Aが種々提供されている。例えば第

9図に示されるようなものがある。このものはカフ帯1の上面に箱形に形成された血圧計本体2を装着して構成してあり、使用するにあたっては、第9図に示されるようにカフ帯1を人体の血圧測定可能な部分1、例えば腕に巻き付けて装着し、血圧を計測するようになっている。

〔発明が解決しようとする課題〕

しかし上述のような従来例にあっては、装着時に血圧計本体2を持って装着するのかが、カフ帯1を持って装着するのかがはっきりせず、使用上不便さを感じることもあり、カフ帯1を持って装着する場合、カフ帯1を腕に巻き付けるようにして血圧計本体2を所定位置に位置させるには血圧計本体2が移動しやすく装着しにくいという問題があり、また、血圧計本体2を持って装着する場合、血圧計本体2には手で持つための把持部が予め形成されておらず手で持ちにくいものであり、この結果、装着しにくいという問題があった。

本発明は上記問題点を解決しようとするものであり、その目的とするところは、血圧計本体を持っ

て装着することで手間取ることなく簡単に人体の  
 血圧測定可能な部分に血圧計を装着することがで  
 きる血圧計を提供するにある。

〔課題を解決するための手段〕

上記目的を達成するために、本発明における血  
 圧計Aは、カフ帯1の上面に取着された血圧計本  
 体2の一端側を他端側に比べてカフ帯1の湾曲方  
 向に沿って延出し、この延出部分に人体の血圧測  
 定可能な部分イへのカフ帯装着時の把持部3を形  
 成したものである。

〔作用〕

血圧計Aを人体の血圧測定可能な部分イに装着す  
 るにあたっては、血圧計本体2に予め形成された把  
 持部3を持って血圧測定可能な部分イに装着する。  
 このように把持部3を持つことで直接血圧計本体  
 2を持ってぐらついたりすることなく血圧計Aを  
 血圧測定可能な部分イに装着することができる。

〔実施例〕

以下、本発明を図示された実施例に基づいて詳  
 述する。

うなことがなく、血圧計Aを手間取ることなく腕  
 に装着することができるようにしてある。血圧計  
 本体2の内部に収納配置される電気部品は第3図  
 に示されるように収納してあり、あまり厚み寸法  
 を取らず軽量の回路部品5は血圧計本体2内の中  
 央に配置してある。把持部3内には血圧測定時に  
 カフ帯1を膨張させるためのポンプ6、電池7等  
 の比較的容積を取ると共に重量のある部品を収容  
 してある。このように把持部3内に重量のある部  
 品を収容するようにしてあると把持部3を持って  
 血圧計本体2を人体の血圧測定可能な部分イに装  
 着する場合には安定した状態で血圧計本体2を手  
 で持つことができ、ぐらついたりすることなく血  
 圧計Aの装着を行うことができるものである。把  
 持部3の側面には第4図、第5図に示されるよう  
 に滑り止め部分8を形成してある。第4図に示さ  
 れるものにあつては、指で押さえる把持部3の側  
 面に複数の突条8aを設けてあり、この突条8aに  
 よつて滑り止め部分8を形成してある。第5図に  
 示されるものにあつては、指の形状に合わせて曲

血圧計Aは第1図に示されるように湾曲したカ  
 フ帯1の上面に血圧計本体2を取着して形成して  
 ある。4はカフ帯1を腕等の人体要所に巻き付け  
 て固定する場合に使用する止め片であり、カフ帯  
 1の一端より連出してある。血圧計本体2はカフ  
 帯1の長手方向に亘る中心に位置するようにカフ  
 帯1の上面に取着してあり、下面はカフ帯1の湾  
 曲に沿うように凹状に曲成してある。この血圧計  
 本体2の一端側は他端側に比べてカフ帯1の湾曲  
 方向に沿って延出させてあり、この延出された部  
 分に手で持つための把持部3を形成してある。そ  
 して、人体の血圧測定可能な部分イ、例えば腕に  
 血圧計Aを装着するにあつては、第2図に示さ  
 れるように把持部3を手で持ってカフ帯1を腕に  
 巻き付けるようにして血圧測定可能な部分イに装  
 着するものである。このように把持部3を手で持  
 ちて腕に装着することができることにより、血圧計  
 Aを構成する比較的重量のある血圧計本体2を直  
 接手で持って血圧計Aを腕に装着することができ、  
 ぐらついたりして位置決めを行いにくいというよ

面部分8cを有する突起8bを突設してあり、この  
 突起8bによつて滑り止め部分8を形成してある。  
 図示された実施例にあつては、複数の突条8aや  
 突起8bによつて滑り止め部分8を形成したもの  
 を示してあるが、このもののみに限定されるもの  
 ではなく、エンボス加工等によつて滑り止め部分  
 8を形成したりしてもよいものである。

そして、使用時にはカフ帯1の一端より連出さ  
 れた止め片4を固定手段9にて固定することでカ  
 フ帯1を人体の血圧測定可能な部分イに巻回して  
 装着することができるようにしてある。

第6図には固定手段9の一実施例を示してあり、  
 このものにあつては、止め片4に雄側の面状ファ  
 スナー10aを設けてあり、把持部3の側端面に  
 雌側の面状ファスナー10bを設けてあり、これ  
 らの面状ファスナー10によつて固定手段9を構  
 成してある。そして、装着時にはカフ帯1を人体  
 の血圧測定可能な部分イに巻き付けた状態で止め  
 片4を第6図中想像線にて示されるように上方に  
 巻き上げ、雌側の面状ファスナー10aと雄側の

面状ファスナー 10bとを接着することで装着するようにしてある。このとき、把持部 3 側に位置するカフ帯 1 の表面にも面状ファスナー 10 を設けてあり、接着が確実に行なわれるようにしてある。

上述した実施例にあっては、止め片 4 に雄側の面状ファスナー 10b を設け、把持部 3 の側端面に雄側の面状ファスナー 10a を設ける場合を示したが、止め片 4 に雄側の面状ファスナー 10a を設け、把持部 3 の側端面に雌側の面状ファスナー 10b を設けるようにしてあってもよい。

第 7 図は固定手段 9 の他の実施例を示すものであり、このものにあっては、固定手段 9 は把持部 3 の側端面に突設されたフック受け 9a と、このフック受け 9a に引掛係止されるフック 9b とによって構成してある。フック 9b には止め片 4 の先端を挿通することができる通し孔 11 を設けてあり、フック 9b は止め片 4 の先端を通し孔 11 に挿通することで止め片 4 の先端に設けてある。そして、この通し孔 11 によって長さ調整部分 12 を形成

分イに装着することができるものである。つまり、表示部分 13 が目で見える向き(装着部分が腕である場合には腕の上面側)に表示部分 13 が位置するように血圧計本体 2 を配置すると血圧計本体 2 が装着ずれすることなく装着されるものである。

#### [発明の効果]

本発明の血圧計は叙述のようにカフ帯の上面に装着された血圧計本体の一端側を他端側に比べてカフ帯の湾曲方向に沿って延出し、この延出部分に人体の血圧測定可能な部分へのカフ帯装着時の把持部を形成してあるので、使用時に血圧計を人体の血圧測定可能な部分に装着するにあたっては、血圧計本体に予め形成された把持部を持って装着することができ、このように血圧計本体を持って装着することができることによって血圧計本体を装着位置に位置決めしやすいものであり、ぐらついたりして装着に手間取るようなことがないものであり、装着しやすいものである。

#### 4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本発明の一実施例の斜視図、第 2 図は

してあり、通し孔 11 に挿通される止め片 4 の挿通深さを調整することでフック 9b の取付位置を調整し、止め片 4 の長さを調整することができるようにしてある。そして、装着時には止め片 4 の長さを人体要部イの大きさに合わせて予め調整した後、カフ帯 1 を人体の血圧測定可能な部分イに装着し、フック 9b をフック受け 9a に引掛係止する。次いで通し孔 11 に挿通したカフ帯 1 の先端を引っ張って長さ調整を行い、カフ帯 1 の固定を確実に行うことができるようにしてある。

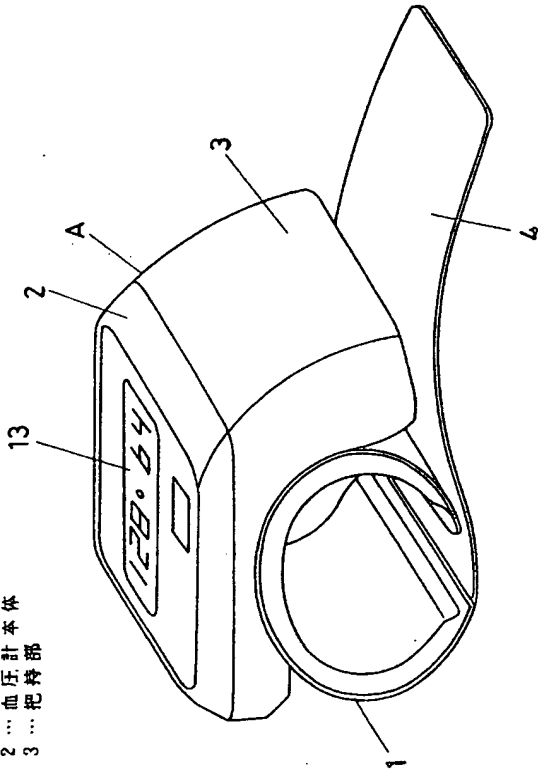
第 8 図にはカフ帯 1 の上面に装着された血圧計本体 2 と血圧計本体 2 に設けた表示部分 13 の配置状態を示してある。血圧計本体 2 はカフ帯 1 の長手方向に亘る中心に位置するようにカフ帯 1 の上面に装着してあり、また、測定した血圧を表示する表示部分 13 も中心部分がカフ帯 1 の中心線上に配置するようにしてある。このように構成してあると表示部分 13 が特定の向きを向くように血圧計本体 2 を装着すればカフ帯 1 が位置ずれを起こしたりすることなく人体の血圧測定可能な部

同上の手で持った状態を示す斜視図、第 3 図は内部構成を示す斜視図、第 4 図、第 5 図は把持部に形成された滑り止め部分の各実施例を示す一部切欠した斜視図、第 6 図はカフ帯の固定手段を示す側面図、第 7 図は同上の他の実施例を示す側面図、第 8 図(a)(b)は血圧計本体及び表示部分の配置状態を示す平面図、側断面図、第 9 図は従来例の斜視図であって、A は血圧計、1 はカフ帯、2 は血圧計本体、3 は把持部である。

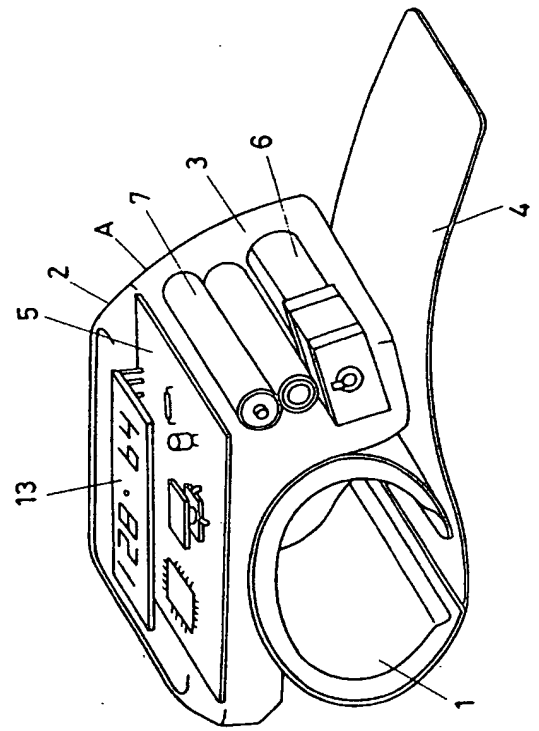
代理人 弁理士 石 田 長 七

第1図

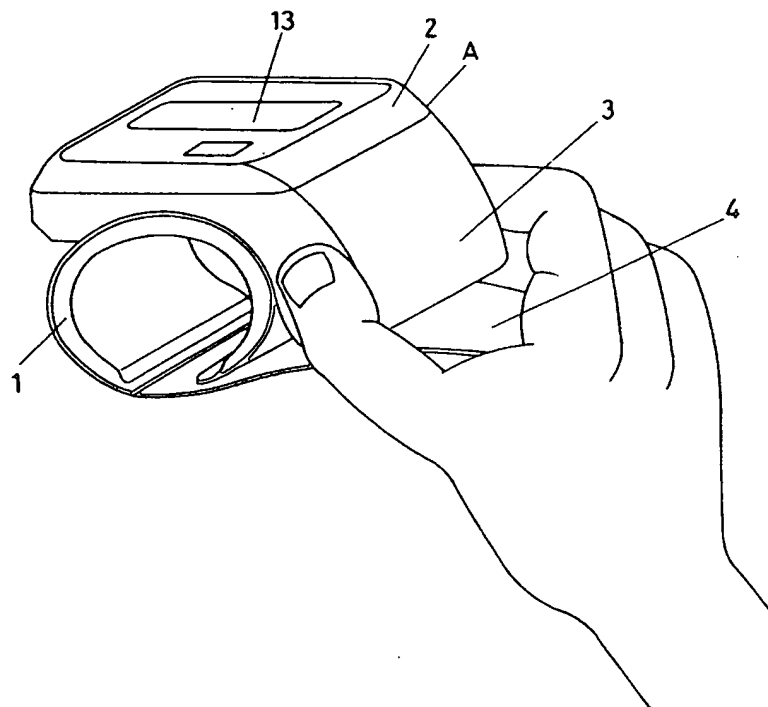
A ... 血圧計  
1 ... カフ帯  
2 ... 血圧計本体  
3 ... 把持部



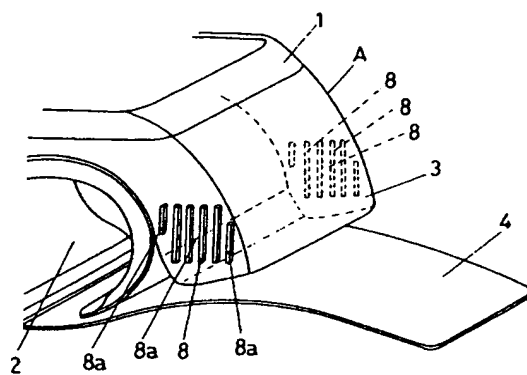
第3図



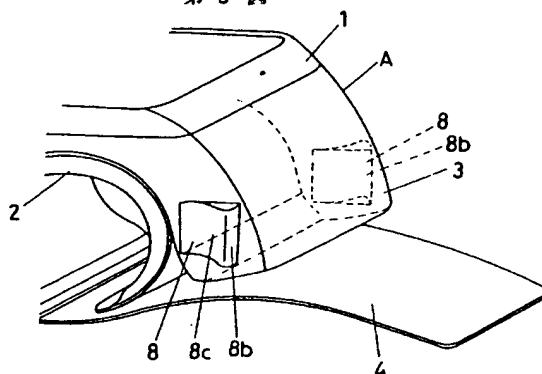
第2図



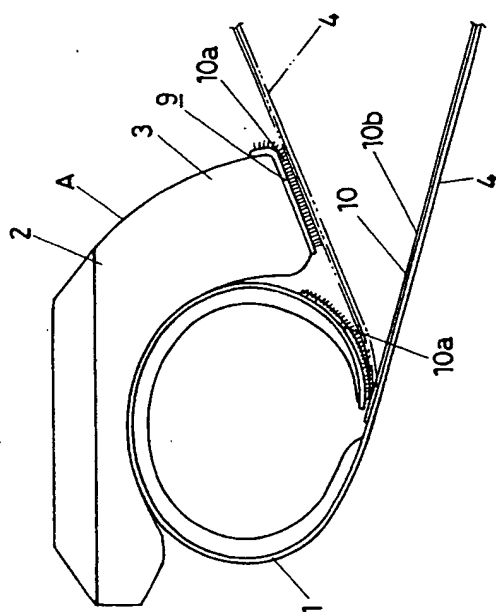
第 4 図



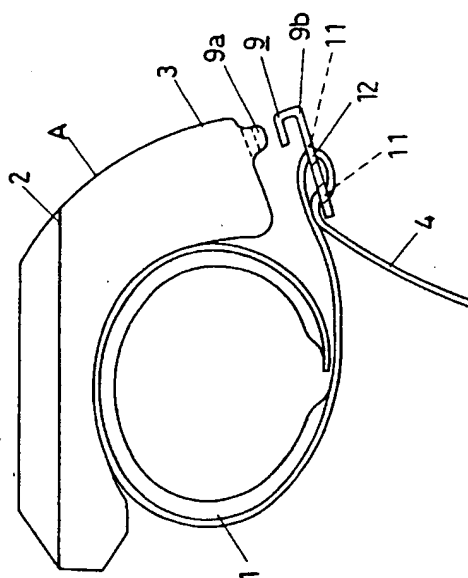
第 5 図



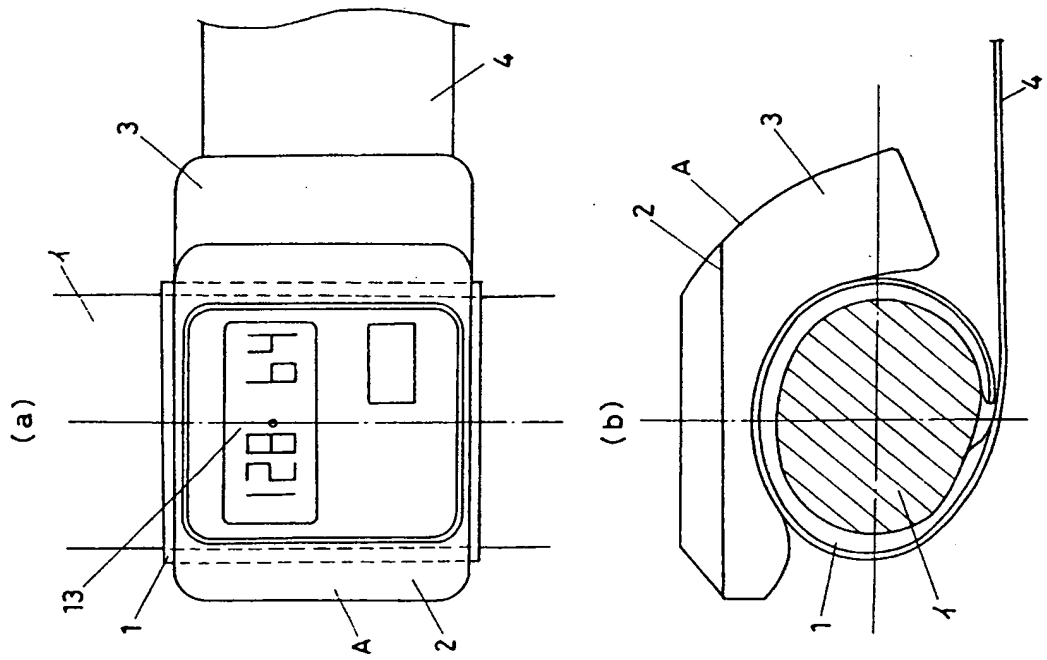
第 6 図



第 7 図



第 8 図



第 9 図

